

# 富山県高P連会報

第 112 号  
2015.2

編集発行  
富山県高等学校PTA連合会  
発行人 会長 牧田和樹  
富山市千歳町1-5-1  
富山県教育記念館41号  
TEL 076(432)2810  
FAX 076(432)1501

## 平成26年度富山県高P大会・指導者研修会を開催

平成26年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会が10月21日、ホテルグランテラス富山で開催されました。昨年度まで一日開催でしたが、本年度から半日開催になり、研究発表や記念講演などの時間が短くなりました。短い時間のなか、濃密な議論が交わされ、充実した大会になりました。



開会式では、牧田和樹会長から、「物事にはそれが起こる原因があり、真理が含まれている。物事の本質を見極め、それをどう活かすかが大切である。本日の大会・研修会を通して、各校のPTA活動に活かせる何かを掴んでいただきたい。」との挨拶がありました。

来賓を代表して、寺井幹男県教育委員会教育長から、「全国的に見ても進学もしない若者が増えているなか、多くの生徒が目標を持って勉学・スポーツ文化活動に励んでいるのは、本人の努力と、先生方の指導や保護者のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。」

規範意識の低下など様々な課題のなか、「富山県教育振興基本計画」を策定した。子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育を推進し、人間力を育む教育を進めていきたいと考えている。

先日ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんが国連の演説で「教育こそが唯一の解決の道である。教育をすすすべきである。」と述べていた。これは教育関係者に取

り大変重い言葉であり、激励を受けた気持ちで聞いていた。

我が国も様々な問題に直面しているが、個人の能力を高めること、教育の力が重要だと考えている。教育を怠ると取り返しがつかないことを肝に銘じておきたい。

本日の大会が爽りの多い研修となることを期待している。また、会員

各位の健勝と発展を祈っている。」との祝辞をいただきました。続いて、「活力あるPTA活動を目指して」をメインテーマに、4校のPTAから研究発表がありました。

一 本校の特色あるPTA活動  
富山北部高校教育友会  
会長 牧 稔

二 子どもたちと共に歩むPTA活動  
高岡高校PTA  
会長 越田 喜規

三 高校教育とPTA  
砺波高校PTA  
会長 水上 幸俊

四 みんなが参加できるPTA活動を目指して  
富山聴覚総合支援学校朗和会  
会長 石浦 久美子

全体討議では各発表に対して様々な質疑応答がなされ、活発な討議が行われました。



その後、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班の八島美智子班長と魚津高校の國香正稔校長から講評をいただきました。

八島班長は、「貴重な発表と熱心な討議から皆さんの熱い思いが感じられた。富山北部高校の岩瀬クリンアップ運動や福祉施設訪問など、地域貢献の意識が高い、「子どもと共に」の姿勢で貫かれた活動。高岡高校の子供の自己実現を支える応援団としての親の役割を強く感じさせる取組。砺波高校の「親の受験奮闘記」や「保護者からのメッセージ」など、保護者と学校が一体となった「チーム砺波」としての取組。富山聴覚総合支援学校の保護者全員のPTA活動に対する理解に基づいた活動や生徒会を活用した子どもたちと保護者の交流活動。いずれも学校の実情に応じた実践であり、本日の発表から得たことを各校に持ち帰り、今後のPTA活動に活かして欲しい。」と助言されました。

國香校長は自校での事例に基づき、「学校が誠実な対応を示すことで、生徒は真摯に受け止め共感してくれる。また、その子ども様子を見て家庭も子どもの成長を実感し、学校を応援してくれる。問題に対する誠実な対応を示すことが大切であると実感した。同じ場所に集まり、同じ話を聞いているこの時間が大切なPTA活動であり、ここで培ったつながりを活かして活動する姿勢を学校と保護者が子どもたちに示すことが大切である。」と助言されました。

最後に記念講演がありました。本年度の記念講演は、「教育と新幹線開業」というテーマで、(株)ANA総合研究所研究員・富山市地域づくりマネージャーの松丸祥子氏と県教育委員会教育次長山崎弘一氏との対談形式で行われました。

# 記念講演「対談」

演題（対談テーマ）  
『教育と新幹線開業』

講師（対談者）

（株）ANA総合研究所研究員

富山地域づくりマネージャー

松丸 祥子 氏

県教育委員会教育次長

山崎 弘一 氏

進行役の牧田高P連会長が、「北陸新幹線が開業して教育にも変化が起ころのではと考え、対談を企画した。」とテーマ設定の説明があり、講師が各自の考えを示した。

松丸さんは、「田舎の人が多いが多くなっており、夏休みに帰省より国内旅行へ出かける人の割合が多くなっている。地方の魅力をPRすることが、訪れる人を増やすことになる。」



また、現在の高校生は生まれた時から競争率が低いなかで育ってきたので、そこそこの状態で満足してしまふ傾向がある。しかしこれからは、自分のことをしっかりと表現する力が必要である。

新幹線の開業に伴い東京との距離感が近くなるので、自分の街が誇りを持てる地域と考え、魅力を発信す

ることが大切であり、そのような人を育てることが必要である。」と述べられた。

山崎教育次長は、「北陸新幹線の開業によって、到達時間が短くなる列車本数が増える、輸送人数が増えるという変化がおこるが、そのことによつて高校にどんな影響が出るかは分からない。新幹線開業だけでは変わらないが、何かを変えようと思えば変わっていく。変える意識が大切である。」と述べられた。

進行が「新幹線開業により利便性が高まるが、既に開業している地方都市では東京化が進んでいる。どのような変化が起これと考えているか。」と会場の意見を求めたところ、「富山大学の募集エリアが拡大し、倍率が高くなる。その対応の結果、県内に特色ある高校が増える。」

「関西圏への交通の便が悪くなり、関西指向が弱まるのではないか。」などの意見があった。

これに対し講師から、「長野県からの富山大学志望者が増え、倍率は高くなるかもしれない。」「ほくほく線開通により東京への利便性が高まったが、県外進学者の進学先割合に変化はなかった。新幹線が開業しても大きな変化はないと思う。」「特急の待ち合わせがなくなり、普通電車の利便性が高まるなど、在来線の変化が高校にかなりの影響を与えると思う。」「富山県は幸福度指数が高い。意識の変化がチャンスを導く。」などと述べられ、熱心な討議が行われ終了した。

## アンケート結果

10月21日に開催された県高P大会・指導者研修会において、生徒生活指導委員会がスマートフォン等の使用に関するアンケート調査を実施しました。その結果概要を報告します。

保護者84名、教員52名（校長・教頭31名、教諭21名）の136名から回答がありました。

家庭で子どもとの間に携帯電話やスマートフォンの使用に関する約束があると答えた保護者は約48%でした。約束の内容は、使用時間に関する約束が最も多く、次に多かったのは「食事中に使用しない」でした。

また、「料金や使用方法について約束している」「会話をしているときに使用しない」「自分の部屋に持ち込まない」などがありました。

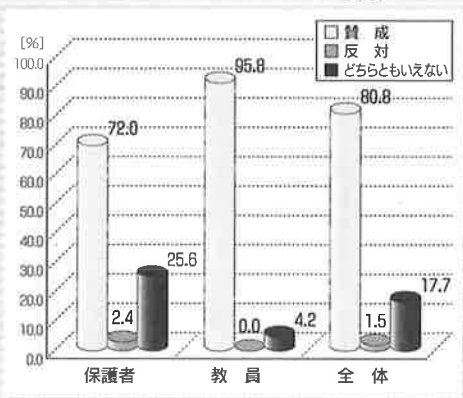
携帯電話やスマートフォンを子どもたちが使用する時間に制限を設ける運動についての考えを聞いたところ、

ろ、保護者の72%、教員の96%が賛成であると答えています。「どちらともいえない」と答えたのは、保護者は約26%であるのに対し教員は2名でした。使用制限の必要性を教員の方がより強く感じていることを示す結果となりました。

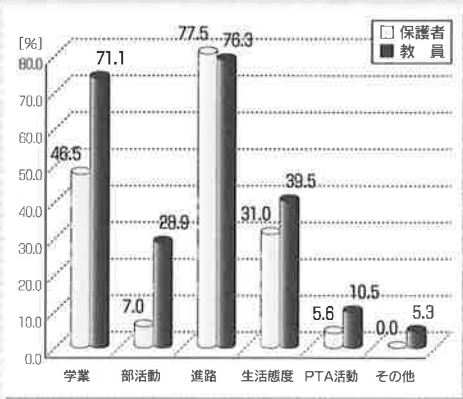
高P連に取り組んで欲しい活動として、「新しいアプリやSNSの正しい使用法等の講習会」「被害事例やトラブル対処法、SNSのマイナスイ面等の情報提供」を挙げる人が多く、県P連や学校等と連携した取組を望む回答も多くありました。

保護者として悩んだり不安を感じていることについて尋ねたところ、「進路」に関することが78%と最も多く、「学業」47%、「生活態度」31%の順でした。この質問に対する教員の回答も同様な傾向を示しているが、「学業」が71%で保護者の1.5倍、「部活動」が29%で4.1倍である点が特徴的でした。

「携帯・スマホを使用しない時間を設ける運動」について



保護者が悩んだり不安を感じていること



# 共学共育

## \*富山北部高校PTA\*

「学校、生徒、地域と連携を図り、

ともに歩むPTA活動」

本校のPTAは「育友会」といい、役員は会長、副会長、監事の15名、委員は、総務委員会、文化厚生委員会、生徒生活指導委員会それぞれ20名の60名から成ります。また、元会長14名から成る教育振興会という組織もあります。

総会、委員会、役員会は、5月の土曜日に行います。総会後は、進路講演会や学年懇談会を開催し、子供達の進路を考える良い機会になっています。

総務委員会は、特色あるPTA活動支援事業を活用した育友会行事の企画・運営を担当し、過去に地域の環境美化活動、福祉施設訪問、講演会、学園祭での模擬店を行っています。今年は、学園祭で模擬店を行い、多くの役員も参加し、白エビカレー、フランクフルト、アイスクリームを調理・販売しました。前日から仕込みを行い、当日は早朝から準備をしました。その甲斐もあつたのかすべし、1時間前に完売し、生徒や保護者



地域の方々から大好評を得ました。収益は震災等の募金や次回の生徒活動資金に使ってもらいます。

文化厚生委員会は、年2回PTA機関誌「いくゆう」を発行し、PTA活動の報告、その季節の行事の特集、生徒の表彰、保護者の感想などを掲載しています。(3月号の卒業生との対話特集は感動します。)

生徒生活指導委員会は、生徒の生活・交通指導として「さわやか運動」に参加しています。年2回6日間、登校時に校門と連町駅で、生徒と一緒にあいさつ運動を行っています。

本校では、平成7年から年2回学校周辺の環境美化を行うボランティア活動「いわせのクリーンアップデー」を実施しています。また、学科の特色を活かし「富山くすりフェア」で薬の製造実演やタペストリーの展示、ライトレール、ポトラムの装飾等多くの地域の活動に参加協力しています。育友会でも「いわせのクリーンアップデー」に参加し生徒とともに清掃活動を行っています。



今後も、学校、生徒、地域と連携を図り(生徒にとつての最大の教育環境は私達の成長です)、ともに歩み、活力あるPTA活動に取り組んでいきたいと思ひます。

富山北部高校PTA会長 牧 稔

## \*伏木高校PTA\*

「国際交流を支援するPTA活動」

本校PTAは会長1名、副会長7名、会計監査2名、総務・進路指導・保健厚生・生活指導・国際交流の各委員長と副委員長12名の計22名で常任委員会を構成し、さらにクラス委員36名が5委員会に所属し全体委員会を構成しています。

総務委員会では会報の発行、総会常任委員会(6回)の運営、進路指導委員会では職業人講話の開催、保健厚生委員会ではふるさとクリーン作戦、生活指導員会ではさわやか運動や防犯交通安全指導を行っています。

本校国際交流科では、中・韓・露・米の友好校と交流しています。国際交流委員会では、友好校生徒のホームステイ受け入れと国際交流活動がスムーズに行えるように支援をしています。PTA総会時に、保護者に対して、生徒の語学研修体験発表とPTA会員による受入れ体験発表を行い、その際「PTA総会アピール」を採択し、その理解と協力をお願いしています。「国際人として、当たり前前のごとが自然にできる人になってほしい」という本校ならではの項目を設けています。

7月には中国・米国の友好校生徒



をもてなすために、本校中庭においてPTA主催で歓迎バーベキューを行いました。今年度は友好校の生徒・本校生徒・受入れ家庭の保護者・教職員・PTA国際交流委員会の総勢約150名が参加しました。また、日本の文化に触れてもらおうと、ヨーヨーつりを企画し、和やかで充実した時を過ごすことができました。

9月の国際交流科設置10周年記念府丘祭(学校祭)では、PTA主催で記念餅つきを行いました。ロシア友好校生徒の来校時期と重なり、たいへん喜んでもらえました。



ホームステイを受け入れた保護者からは「言葉が違っても感謝の気持ちがよく伝わった」「肩を抱きあつて別れを惜しむ姿に自分も感動した」という声が多く聞かれました。これからも家庭と学校が連携をとり、受け入れに対する心構えや不安の解消などにつとめ、ますます活発な交流活動が展開できるようにPTA活動に取り組みたいと考えています。

また、11月のFUSHIKI教育フォーラム(伏木地区PTA連絡協議会主催)において本校の取り組みについて発表するなど、地域に根ざしたPTA活動を行っています。

伏木高校PTA会長 中瀬 真明

＊となみ総合支援学校PTA＊  
「全員参加のPTA活動」

本校は会長1名、副会長4名、総務・生活保健・文化活動・地区の各委員会の委員長1名と副委員長2名、監査3名、庶務1名、顧問1名の計22名の役員を中心に、全ての保護者が各委員会に所属してPTAの組織を構成しています。

「自立と社会参加に必要な力を身につける」ことを目標に、小学部1年から高等部3年までの幅広い年齢・個性をもった児童生徒たちが共に学んでおり、PTA活動においてもこの目標を念頭に置き、学校行事に参加・協力することで子供たちの成長を見守っています。

総務委員会ではPTA研修視察や進路研修会を企画しています。今年度の研修視察では就労継続支援A型事業所や障がい者支援施設を訪問しました。この視察は子どもたちの将来を考える、そしてPTA会員同士の交流を深める良い機会です、毎回多数の参加を頂いています。



生活保健委員会ではベルマーク運動を通じて子供たちの教育環境を整える手助けを行い、学校内外の清掃等を親子で行う奉仕活動の企画もしています。

文化活動委員会  
会では年1回  
「親子の集い」



を開催しています。この集いでは毎年ボランティアのバンドにその年の話題曲などを演奏していただき、年齢や障がいの枠を超えて全ての児童生徒が自由に歌ったり踊ったりして共に楽しんでいきます。

地区委員会では卒業後の各地区での生活を考え、地区ごとの交流を深めることを目的に地区別懇談会を開催しています。また、ボウリング大会等のレクリエーションの企画もしています。

また、全委員会共同で学習発表会において食堂や売店等の企画・運営を行っています。様々な個性をもつ子供たちが共に協力し楽しめるようPTA会員が一丸となつていろいろなアイデアを出し、工夫を凝らしており、毎年大盛況です。

本校のPTA活動の最大の特徴は保護者全員が委員会に所属し、活動を行っているという点です。子供たちの成長・自立の助けになるよう積極的に学校と連携しつつ、保護者同士の交流を通して自分たちも成長できる活動となればと願っています。

となみ総合支援学校PTA会長  
米谷 陽子

新年度教育関係予算の  
充実を知事に要望

1月28日に牧田会長と副会長5名が県庁に石井知事を訪ね、「時代の進展に即応した学校づくりの推進」「特別支援教育の充実」「高校生徒指導等の充実」「教員の資質向上」の4点を重点に県立学校の教育振興を要望しました。また、知性と徳性のバランスある教育の実施や雇用の確保などを要望しました。

知事からは、「特別支援学校普通教室への冷房設備設置は今年度末、校舎の耐震化は27年度末までに完了予定であり、施設設備の充実に努めている。」



知識や技術に偏重しないバランスある教育は教育委員会も心がけていることであり、留意していく。県立学校整備のありかた等に関する検討委員会でも議論を深めていただきたい。若い皆さんが就職先に希望、誇りを持つことが大事であり、新幹線開業を追い風に魅力ある企業を誘致するなど安定雇用を努めていきたい。SNSによるいじめなどにはしっかり対応したい。

いろいろな経験をした人が教育現場に居ることは大切であり、優秀な人材の確保に努めていきたい。」などと回答されました。

平成26年度の主な事業

- 4月25日 平成25年度第4回理事会
- 5月20日 第1回幹事会
- 6月3日 定期大会・第1回企画広報委員会兼理事會
- 6月17日 第1回生徒生活指導委員会
- 6月中下旬 地区PTA指導者研修会
- 6月26日 第1回家庭教育委員会
- 7月3・4日 北信越地区高P連研究大会長野大会
- 7月10日 第1回会報編集委員会
- 8月8日 県P連・高P連教育懇談会
- 8月22・23日 全国高P連大会福井大会
- 9月18日 第2回企画広報委員会
- 9月18日 第2回理事會
- 9月25日 第2回家庭教育委員会
- 9月30日 第2回幹事會
- 10月14日 第2回生徒生活指導委員会
- 10月21日 県高P大会・指導者研修會
- 10月29日 教育関係予算の県教委陳情
- 11月27日 第3回生徒生活指導委員会
- 12月4日 第2回会報編集委員会
- 1月4日 教育関係予算の知事要望
- 1月28日 第3回企画広報委員会
- 2月17日 第3回理事會

編集後記

待望の北陸新幹線の開業が1ヶ月を切りました。試験走行の映像や実際の走行も時折見つけられます。走行音も静かですし早いので気分が良い時もあるようです。開業後には、「かはやき」変化を感じつつگرانクラスに乗車したいものです。終わりに会報の発行に際し執筆と寄稿くださった皆様に感謝すると共に委員の皆様一年間ご苦勞様でした。

(会報編集委員長 山口 泰弘)